

平成25年度北海道大学情報基盤センター共同研究成果報告書

1. 研究領域番号 A5 デジタルコンテンツ
2. 研究課題名 オープン教材とオンライン教育の評価と活用
3. 研究期間 平成25年 4月 1日 ~ 平成26年 3月31日

4. 研究代表者

氏名	所属機関・部局名	職名	備考
福原 美三	明治大学 研究・知財戦略機構	特任教授	

5. 研究分担者

氏名	所属機関・部局名	職名	備考
土佐 尚子	京都大学 学術情報メディアセンター	教授	
渡辺 智暁	国際大学 GLOCOM	准教授	
重田 勝介	北海道大学 情報基盤センター	准教授	
布施 泉	北海道大学 情報基盤センター	教授	

6. 共同研究の成果

下欄には、当該研究期間内に実施した共同研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、共同研究申請書に記載した「研究目的」と「研究計画・方法」に照らし、800字~1,000字で、できるだけ分かりやすく記載願います。文章の他に、研究成果を端的に表す図表を貼り付けても構いません。なお、研究成果の論文・学会発表等を行った実績（発表等の予定を含む。）があれば、あわせて記載して下さい。

研究代表者及び研究分担者は、高等教育の教育コンテンツをインターネット上で無償公開するオープンコースウェア（OCW）の開発や、オープン教材(OER: Open Educational Resources)を活用した大規模公開オンライン講義(MOOCs: Massive Open Online Courses)の研究に関わっている。本研究の目的は、これらの教育コンテンツの公開とオープン教材と活用の研究の実績をふまえ、高等教育のための教育コンテンツの評価と活用に関し、国内外の現状と動向を調査・分析し、方法の検証と開発を進め、課題を明らかにすることである。2001年の米国MITによるOCWの開始以来、iTunes UやYoutube EDUの開設や、CourseraやedXに代表されるMOOCsによるオンライン教育の公開など、様々な形で高等教育における多数の教育コンテンツがインターネット上で公開されている。教育コンテンツの公開とオープンな教育・学習をグローバルに推進するオープン・エデュケーションは新たな段階を迎えており、公開された教育コンテンツの適切な評価と有効な活用方法が問われている。教育コンテンツを有効に評価・活用することは、高等教育の質向上と高等教育機関の評価に大いに寄与しうる。本研究では、国内外において様々な取組や研究開発をもとに、オープン・エデュケーションに関わる国内外の様々な活動と連携・協力し、調査・研究を行う。

本研究では、高等教育機関がインターネット上で公開しているオープン教材とオンライン教育その評価と活用について、以下の点を中心に調査・研究を行うとともに、研究打ち合わせおよび研究会を開催した。

1. オープン・エデュケーションに関する研究打ち合わせ（7月13日）

打ち合わせ参加者：研究代表者と分担社全員

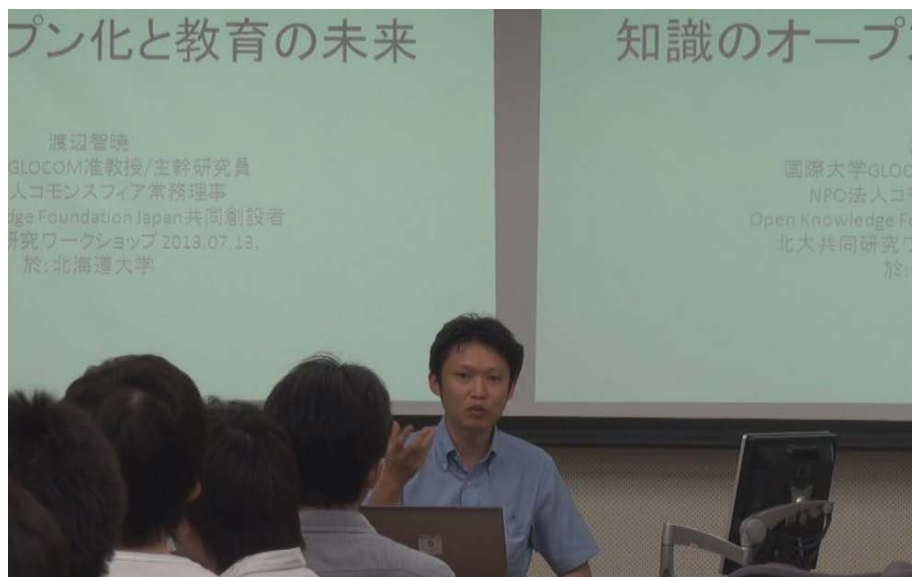
本研究の参加者全員で、国内外におけるOCWやMOOCに関する情報共有を行うとともに、オープンエデュケーションの活動を効果的に継続するために共同で行うべき内容について、議論を行った。

2. オープン・エデュケーションに関わる研究会の開催（7月13日）

講師：渡辺智暁（国際大学 GLOCOM）

パネルディスカッション：研究分担者（福原、土佐、渡辺）

研究会では、はじめに渡辺智暁氏の講演として「知識のオープン化と教育の未来」と題し、オープンエデュケーションやインターネットにおける知のオープン化がもたらす新しい教育と学習の可能性について、事例紹介と提言がなされた。引き続きパネルディスカッションにおいて、オープンエデュケーションが教育と学習のあり方に与える影響と大学の未来像について議論を行った。



研究会の様子